明治廿五年三月廿九日印刷
明治廿五年三月廿九日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第貳拾八號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌

第貳拾八號

目次

◎演説

◎慣習と經濟は衛生の敵　朝山義六君

◎初生兒膿漏眼の豫防に就て　宮下俊吉君

◎本會錄事

◎本會半年度會計報告

◎全事務報告

◎會告數件

本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き随て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は毎月一回第一土曜集會を開き諸大家を聘し講義演説を囑し會員は勿論同親族知已の傍聽を得せしめ又之を筆記して毎月會員に頒つ

◎本會會員を分て修身特別通常學生男子贊成員とす

◎修身會員は入會の節金拾圓を收むる者特別會員は毎月貳拾錢以上通常員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子贊成員は毎月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せす族籍住所姓名を記し下谷練塀町四十二番地事務所へ御申込あるべし

大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第貳拾八號　明治廿五年三月廿九日發兌

講演

◎慣習と經濟は衛生の敵（一月九日附屬保育園に於て）

朝山義六君演說

先づ明けましてお目出度う存じます。實は私は今日御斷りを致す覺悟で出ました所が、會長から殊更らに何か饒舌ろと云ふ事で御座いましたか、少し業務の爲めに妨けられて何も考へた事もなく、又復稿もなく皆樣に向つて無責任の話を吐きまするは甚だ慚汗の至りで御座いますが、餘義なく會長の御勸めに從ひまして、演壇に立ちましたので御座いますが、無責任の話を吐きましても、右の通りの次第で御座いますから何卒御咎めの無い樣に冀ひ上ます。實は先日御依賴の御座いました折に少し學者の眞似事をして本箱を引繰り返しました所が、先般獨國の節途中で讀む爲めに獨逸で小さな本を買ひました、此本の題は、之を日本語に譯して見ますれば、「世の務め」と云ふ樣な意味で御座いますから、此書中に何か適當の事が有つたら御噺しを仕やうと云ふ覺悟の所多忙に取りまぎれ、表紙だも開く事が出來ませんでした、併し是なりにしては殘念で御座いますから、他日折もありましたなら、是非お話しをする積りで御座います。就きましては、今回は御正月の事でも御座いますから、なんぞ滑稽の御話しとして御免を蒙ります

就ては無題で御話しをするも物の局が付きません故甚だ六ケ敷う御座いますけれども「慣習と經濟は衛生の敵」と名を附けて話しを致します御承知の通り、世が開くるに從て人間の智識の增して參るのは當然である、又智識は、單り社會上に及ぼす丈けの

智識が增すのではない、日常の擧動、寢食共に增して來る自ら感ずる事は誠に少くても社會の刺激に因て增すので有る。それに附けても、衛生の思想も發達せなくてはならんので御座いますが、然ると奈何や、衛生の思想と云ふものは、他の一般の事に比較して見れば、人々に其思想を與へる事が少しく遲い、何故遲いかと云ふに、今申した慣習經濟が衛局となつて居るやうに考へる。御承知の通り、我國にもそれ〳〵金滿家も有り、相當の資產有る人も御座います、今御寺を建るに就て「御先祖代々の御位牌も飾つてある事ですから、どうか御寄捨を願ふ事は出來ますまいかと云ふと資產家喜んで寄附を致します。そこで、今日此有樣で往つたなら、人間不幸の死を免れぬから、產科院を建てなければならんと云ふと、「ハヽア產科院とはなんだ」抔と云つて、自分が生れて來ながら、產科院も知らないやうな有樣で、一分の物は扨措て、半分の物も出して吳れない。斯樣に少しも衛生の思想がないはどう云ふ譯であるかと云ふに、唯古來の慣習で、神佛は尊いものだ……人間と云ふものは每日御飯を食べて居れば少しも恐れる事は無い、お產も天然に生れるのであるから決して心配するには及ばないと云ふやうな習慣になつて居り、且又食物は滋養物を食し、淸潔なる着物を着て、空氣の流通のよい家に住うには、先づ第一に入る物は金、其金とは他の事に費すよりは、猶一層多く費さなければならぬのに、我々が驕りがましく、牛肉或は魚抔を食べるは無駄だ抔と云つて、恬として顧みませんのは、金と云ふ一ツの敵が有るからで、其金を自分のからだに費すことを好みません。元來衛生と云ふ事が、關接であるかも知れんが、多分の金を要さないで出來たなら益々進むで有らうが、多くの金が入るやうでは迚も下等社會に廣く及ぼす事は

六ヶ敷い、然らば今日衛生の事業を進めるには、金が無くて進める方法を考へなければならん。我國に虎列剌が流行る、それがどうして傳染病で有るか、又何時傳染るかと云ふは、人々一般に感じまする所ですが、是はバチルレンと云ふものが有つて傳染そる。それは、まるいものか四角なものか、鳥渡見ても誰れにも知れぬが、併し現在傳染して居つても衛生の何たるを知らぬものは、アレは何恐るゝには及ばぬ、不養生な人だと稱へる事はドンなとであるか知らぬと、一向平氣で怡として顧みないと云ふは、一は舊來の慣習に因り、一は經濟の點から、清潔なる衣服を附け滋養物を食べて居る譯に往かんので御座いませう。

それで先づ衛生學を講じまするには、人々各其分に適した事として往かなくてはならん。今假令へば一日一圓で暮す人もあれば、百圓で暮す人も有る、千圓なら千圓を、それに順して衛生を行ふていかなければならん。元と私が斯かる題を出したのは、申すまでもなく貴婦人方に對しては必要は無い、極く下等の人民の爲めに、或は傳染病を防ぐ爲めに、貴婦人方に御咄しをして置くので御座いますから、どうぞ御出入の町人、若くは車夫等に向て御勸告下すつたなら、多少稗益する所があらうと思ひます。

例之ば牛肉一斤を買ふには二十錢かゝります、貧乏人は此の二十錢を出して牛肉を食べる事は出來ません、併しながら何も必ず牛肉に限つた譯ではありません、魚肉にも隨分滋養分を含んで居るものがいくらも御座います。最も下等品として、又其價値も極く廉く鰯抔は上品なる魚よりは却て滋養分を澤山含んで居る。ソシて鰯なれば五錢位ゐで食べる事が出來る。唯衣服は新らしいのを着なければならんと云ふとは、下等人民の爲し能はさるところでそが、上

着は何でもよいとしても、下着丈けは時々清潔なる物と取り換へなければならぬ、實に衛生は經濟の敵であるけれども些少でも成る丈け金のかゝらぬやうにしていつたならば、下等人民が自分の身に就て、衛生と行ふ事が出來るであらうと云ふ考へが有るので御座います。

それで、どうも慣習と經濟とは衛生上に取つて始終敵になつて居る、今譬へば是も一つの慣習と認めて宜しからうと思ふのは、近頃非常に流行せる妙法樣の御水と戴いて居れば如何なる大病と雖どもたちどころに癒ると云ふ一ツの忘想から、腐敗水と飲んで滿足して居るものが澤山ありまそ。又或は何日々々旅行としやうとか、嫁と貰はふとの云ふときに、易と占てもらうと、ドウも今月は月が惡るい日が惡いとか、又は家相と觀て貰へば、方位が惡いとか地面が惡いとの言はれると……家相の話しで面白い事が有ります、横濱の某豪商が家と建るに就て、家相と觀て貰つた所が家相觀の曰ふには是非丑の日の刻に柱丈けでも建てゝ置かなくてはいけません、又北の方は八方閉りて、鬼門に當るから開けてはならぬと云ふので、折角空氣の流通の宜しい處と態々閉いて仕舞つたと云ふ事と其主人の兄弟が聽いてそれは怪しからぬ話であるから、北の方と開けるが好いと云ふので已むと得ず大工に云ひ附けて開ける事となつたところが折惡しく娘が病氣になつたので、矢張り北の方と閉げ開ろと云ふので親類中喧嘩として居りましたが、遂に北の方と開けても大丈夫よろしいと云ふとになつたさうで御座いまそ。實際そう云ふ古よりの慣習が有るため、大事な家とこしらへるに當て、空氣の流通の好いものとわざ／＼閉ぐ樣なとになるので、其衛生に對して害と爲せとは實に大なるもので御座います

モウ一つは、兎角古來御幣擔ぎの精神から、一種固有の想像を株守します。例之ば空腹のときに、茄子杯を煮て充分食べました時に豈計らんや偶然に下痢でも起ると、是は水を呑んだから水にあたつたと云ふ想像を起します、ソシて誰れに向つても、決して水を飲むなと云ふ事を申しますが、之は實に怪からん咄で、下痢したのは御飯をたらふく食べたからで、水を飲まなくても業に已に中に居るのであるに、ソコには心附かず、一概に水を飲んだ故と云ふは、少しく間違つた話である、斯う云ふ人間は、衛生の道は立て居りながら、古來の慣習上から、自分の身の健康を計ることが出來ない。

ア先づ今日貴婦人方始め私共も衛生上に最も害を爲す所の慣習を消滅さるやうに勉めたなら宜しからうと云ふ考へで御座います。併し永らく腦裏に浸み込んで居る所の慣習を打破るは、實際難い事で御座いますから、サウ云ふ場合がありましたならば、其事に深く立ち入つて實驗して見なければならぬと思ふ。例之ば今ドコカにお化が出たと、一犬虚を吠ゆれば萬犬實を吠ゆるの諺の如く、最初は棕櫚箒を見たのも、遂には實際自分が見たやうに咄しをする。若しサウ云ふ咄しがあつたなら變化とは如何なるものか、飽くまで之を見極めるやうにしなければならぬ、丁度衛生上の事はソレと同じく、若しも何々樣の御水を戴かなかつたから、病氣が重くなつたと云ふやうな事を御聞き及びになりましたなら、能く道理を諭して委しく聽せたならば如何に無智の人間でも一度實驗すれば再び忘れる事はあるまいと思ふ。醫師が斯かる事を申しましては、我田に水を引くやうに思召されませうが、眞に誰れか一人實驗すれば、ソレからソレへと傳へるは容易い事であるから御互に勉めたいものであると云ふ考へで御座います。

モウ少し何の有益の御噺しを致したいので御座いますが、何分即座に良い考へも出て參りませんから、今日は是でお暇をいたし、他日又意見を述べる事に致します。今日は是れで御許しを願ひます。』

初生兒膿漏眼の豫防法に就て

宮下俊吉君演說

大澤豊子速記

私は甚だ失禮で御座いますが、此程より風を冒きまして、咽喉が痛みますから、襟卷を附けた儘で御免を蒙ります、私の今日の演題は、玆に掲げて御座います通り「初生兒膿漏眼の豫防法に就て」と申しますので御座います。此の演題は、余り味ひが少なさそうに思はれますけれども、之れを實行しますれば、少くとも年々三百萬圓以上の、國益が有りますから、余程價直の有る演說で有ります、何卒其思召で能く御聽き取りを願ひます。偖て世の中に、如何なる人が第一番に薄命で有りませうか、ドウ云ふ種類の者が第一等の不仕合と云ふので有りませうか、先々月愛知岐阜兩縣下に於て、非常なる震災が有り、諸民は或は家屋を失ひ、或は財產を失ひ、甚しきに至ては、親を失ひ、子を失ひ、妻を失ひ、夫を失ひ、種々樣々の不幸に遭遇した人が澤山に在ります。併し是等は、元天災で有りまして迚も人間の力で防ぐ事の出來ない事柄で御座いますから、是等は例外に致さなければならぬ。然らばソレ等を除きては、如何なる人が不仕合かと云ふに、先づ大抵貧乏人を一番始に數へたがるのが人情で御座ひます、貧乏の人は、如何にも不仕合に違ひありません、嚴冬に爲りまして皮膚を裂く樣な風が吹きましても、暖かに着る事も出來ず。盛夏は……皆樣は御存知有りませまいが、裏店の景况抔と云ふものは、實に慨

然至極なもので……僅かに「ブリキ」の家根で日光の射入を遮つて居るのみ故、頭から火が付いたやうに熱い、皆様のやうに、追々暑くなつて來た、最早伊香保の季候じや、大磯に往かう杯と云ふ事は出來ない。故に貧乏の人は、不幸にハ相違ありませんが併しながら貧乏の人ハ、富貴に爲る事が出來ぬと云ふ譯も有りません、今日金満家で而かも上流に位して居る人々は必ず昔日貧困の人が得た處の結果と申して差支へない。ソテ見ると、貧乏も隨分人を勵す一ツの原素となりますから、貧乏を以て眞の不幸と申す事は出來ません、實に人生の最大の不幸と云へば、不具の人より上越す不幸ハありません。不具と申しても、余は扨置き耳の聞へぬ人、啞盲目なる人に就て申します。試みに。耳も聞えなく、口も利けない人は、ドウ云ふもので有るかと云ふ事を想像しまするに、耳が聞えなければ音樂を聽く事も出來ない、如何に劉喨瓏朗なる聲を放ちて謡ふても、少しも、聞き取る事が出來ない、鶯の聲が如何に愉快で有つても、鹿の聲が如何に物淋しくても、凡そ天地間に在りとあらゆる音聲と云ふものは少しも聽取る事が出來ません。加之ならず、自分で口を利く事も出來ない、是等ハ余程不幸の人と申さなければならぬ。併しながら盲人に較べると、少しは都合の好い事が有ります。例之ば自分で話しをする事が出來なくても、人の話しは分ります。聾で居ながら人の話しが分かると云ふと、余程不思議の樣に思ハれますが、ソレとドウして理解するかと云ふに、唇の運動に因つて稽古をする、私ハ獨逸國に居た頃能く稽古として、熟練した者と對話をした事がありますが、此方で申す事を塗板に書かせまして、此方で申した通りす分違はず書き得ます。ソレですから熟練すれば、人の話しも大抵の事は分りますし、又此の世界

の有様をも見ることが出來る、自分の最も敬愛せる所の、兩親の顔を拜する事も出來る、夫の顔を見ることも出來る、妻の顔も見ることも出來る、子供の愛らしく余念なき様をも見ることも出來る、且つ是等の人は書を讀み、字を寫す事を教へれば、差支なく字も書きます、日々の出來事も新聞紙に因て分かる、又古今の歴史を讀んで、ドウ云ふ人物が有つたかと云ふ事も解ります。是れに反して、盲目の人は自分の思想を言ひ現はす事も出來る、字も凹凸文字とて高い處低い處のあるもの探ぐり、之を讀む事が出來る、併しながら如何なる事が世の中に在つても、如何に觀るべき物事が有つても、親の傍に居つても顔を見る事も出來ず、兄弟の顔を見る事も出來ぬ。親が政府から立派なる勳章を賜つても、外國政府から立派なる勳章を賜つても、子の身として、此名譽ある勳章を見ることも出來ない、只手探りで知る位いの事で、實に是れ程不幸なる人と云ふ者は、世の中に有りません。目が見えねば、ドレ程不便で有るかと云ふことの、其一部分丈けを想像せるには、暫くの間目を閉いで御らんなさい、手巾で目をしばつて御らんなさい。ソコに如何なる御馳走が出て居ても、目を閉いて居ては其好い味ひも分らない。假令目を閉がんでも、少し空が曇りて居ても實に氣持ちが惡い氣が鬱ぐ。空が曇つてさへも氣が鬱ぐではありませんか、目の見えない者は、生涯日光を見ることは出來ない。是程薄命なる人は外に比較のとりやうが無い。サウして見ると、失明は實に恐ろしい、而して是れこそ不幸中の極點と申さなければならんまだ其上に失明の不幸なる事は、本人が物を見ることが出來ないのみならず、外に尚ほ大なる不幸が附て居る、例令ば我日本に一萬人に就て十人の失明者があると假定致しますれば、四百萬人に就ては四萬

人で有る。其中鍼按摩又は音樂等に依る、自活の出來る者を一萬人として、殘り三萬人を毎日働かせましたならば、其の所得を極めて輕く見積り、一人に就て一日三十錢とすれば、三萬人に就て年に三百二十八萬五千圓になりませう。是れだけの金を、盲人が三萬名あると取ることが出來ない、故にソレ丈けの國の損になります、まだ其上に損が有ります。是丈けの人が食べなければならぬ、着なければならぬ、ソレから愈々失明者となるまでに、余程の金錢を費します、是れを概算致しますると、少くとも三百二十四萬圓になりませう。此二ツの高を合せると、一年に我日本國で失ふ所の金額は六百四十八萬五千圓となりませう。昨年議員達ちが非常に骨を折て、政府の經費を假切つた金が六百萬圓、斯様に非常なる費額を削りましても、四十八萬五千圓計り議員達ちの働きの方が劣つて居ります。是れに依て見ますると、失明者の多いのは、一國の經濟に取りましても、非常なる損害を爲して居ります。

失明の原因は澤山に有りまして、到底一席で言ひ盡す事は出來ません。故に今日は此失明の原因の中で重なるもの、即ち初生兒膿漏眼と云ふ、病氣の豫防法を御話し致すつもりで御座いませう。

盲目の人に尋ねて見ますると、多くは生れ附きの盲目で御座いますと申しませうが、併し其原因を深く探索して見ますると、眞に生れながらにして目の見へないと云ふ者は、多數の失明者の中に一人や二人れ御座いませうが、大概ハ皆分娩後、間もなく、此世に生れてから盲目になるので御座います。其昔、天然痘の流行致しまする際、天然痘を煩ひました爲め、失明した者が非常に澤山有りました。併しながら幸ひにして、英國のゼンナアと云ふ醫師が牛痘を種えて天然痘を防ぐと云ふ事を發明して以來、痘瘡の爲

めに失明する者は極めて少數となり、當時では余程稀になりました。然らば今日に於て、失明者を出す原因は、なんで有るのと云ふに、重に初生膿漏眼と云ふ病で御座います。

試みに盲啞學校に往つて、同校生徒を御覽なさい、盲人と云ふ盲人の大多數は、皆初生膿漏眼に依て失明した者で御座ひます。さも悲しい笛を吹いて、市中を呼び步行いて居る按腹者を尋ねて御覽なさい、其大多數は初生膿漏眼に依て失明したもので有ります。ドウしてソンなに危險なる膿漏眼と云ふ病が出來ませう乎、如何なる原因に依て此病ひが出來て參りませう乎、古い歷史に遡つて昔の說を探ると、余り強劇なる光線を生れた子供の目に當てる事、膿漏眼と云ふ病氣が起ると、斯樣に申して居た。成程過激の光線は、生れ立ての赤兒には、非常に害になります。何故害になるのと云ふと、皆樣が烏渡御考へになつたら分りませう、子供が母の胎内に居る時は、光線を遮ぎられて居るのみならず、眼を閉いで居る、ソレが一度此世の中に出ると、目を開いて仕舞ふ初生兒の眼が強い光線に當つて堪へないのは恰も初生兒のからだが寒暑に堪へないのと、同一の理由で御座います。併しながら体溫の方は、古來より如何に野蠻の國と雖も夏、冬其時に應じて、薄ひ物厚い物を着せ、からだの冷る樣なとは仕ない。併し最も大切なる所の眼に至つては、嘗て注意をしない人が往々有りませう。

實に過激の光線は子供の眼には毒になりますけれども、併しながら過激の光線に依て、初生兒膿漏眼が出來たと云ふ事は、今日まで承つた事は有りません。次にからだが冷えた爲めに此病ひを發するといふ事を申した人が有ります、即ち感冒に依て初生兒の膿漏眼は發するといふ人が有りました。併し是れ

とても、感冒に依て發するものでは有りません。第三には、不潔の空氣に依て起る、子供を置く室内で烟草を吸ひ、襁褓を乾すと、空氣が不潔になり、初生兒膿漏眼が出來るといふ說も有りましたが、是れ以て直接に初生兒膿漏眼を惹き起すとは申されません。初生兒膿漏眼の直接の原因は、單り母の胎に毒が有つて、其毒が分娩する際に、子供の眼の中に這入り爲めに此病ひを發すると云ふ事を、近頃になつてキッパリと明示することが出來るやうになりました。(少し下部のお話しに成つて參りましたから成る丈け不潔でない言葉を使用するつもりで有りますから已を得ぬことが、一ッ二ッ出で來るかも知れません。)婦人の懷妊中に、殆んど誰れにでも有るのは、白帶下即ち白血と云ふ病氣でも、或人が極く下等社會の人に就て、調べて見ました處が、二百五十人の姙婦の中で白帶下に罹つて居る人が二百四十九人、即ち二百五十人の中で罹らぬ者は、僅の一人で、餘は皆此の病を患へて居ました。上流社會になるとズット減じて百人に就て六十人乃至七十人位は此白帶下に罹つて居るといふことです。然して白帶下が有つたら、ドウして其毒が子供の眼に這入りませうか御承知の通り産の氣が付いて、愈々生れて仕舞ふまでは、四時間とか、六時間とか、一定の時間を費します。其間子供は、産道を經過りて然して此の世に出て參ります、ソシテ生れる時は眼を閉ひで居る、併しながら産道に附いて居つた不潔なる毒物が赤兒の眼、殊に瞼、睫毛等に附いて居るか或は初湯を遣はせる時に、あらたと洗つた汚水で眼の中に毒が流れて這入ります。其れも種々傳染の模樣も有りますが、クド〱しくなりますから、其の中の一ッ二ッを申し上げて置きます。

一旦此毒物が眼に這入ると、凡そ四十八時間、七十

二時間を費して、即ち生れてから二日目三日目になつて、始めて病氣の徵候が現はれて參る此病氣の發する時は眼瞼が腫れ、眼の中が赤くなり始めは少量なれど、後には多量の膿が出て來ます。此時に至て、早く適當の治療を施せば、遲いながら左程強くはならないが遺憾な事には、日本の產婆といふものが、一般にとはいへませんが、產婆の中の多くは、此初兒膿漏眼といふ病か、非常に危險であるといふ事を知らぬ、況んや素人に至つては產婆よりも尙ほ一層危險なる事を存じません。ソコデ以て、生れ立ての子供の眼から、少し計りの脂が出るのは、當り前で有ると思ふて、手拭或は綿抔で取るくらゐにして、捨て丶置く、其中に段々膿汁が強く出て痛みの爲めに、安眠をる事も出來なくなる。ソコで始めて古流の御醫者さんの處に連れて參ります、サウすると、此先生が如何なる事を遣るかといふに、「マクリ」を飮ませるとか、何か下劑を飮ませて、之れは胎毒から出たので有るから、毒を下せば眼の方も癒ると云はれ、又茲に一週二週の時日を無駄に費し、愈々眼が潰れて仕舞つたか、左なくとも非常に惡くなつて、癒らぬと云ふやうになつて、始めて專門科の處に連れて來る。併しながらモウ斯うなつては、時遲れで、マルで山茨菰を潰したやうに、眼球に穴が開いて仕舞う、サウなつてからは、如何に專門科と云へども、脂の出るのを、止める位ひの事は出來ますが、再び金錢を以て得る事の出來ない視力を與へる事は到底出來ない。故に遂に盲眼となり、或は潰れる程でなくても、少くとも普通の視力よりも幾分の一位しか見ゑない、不具の人となつて仕舞ふ。

然らば初生兒は中の百人に就て、凡そ幾人計り此病ひに罹る者で有らうかと云ふ事を尋ねますると、日本にはまだ信用を措く程の統計表が出來て居りませ

んから、確乎とした事は申されませんが、私の診察を受くる外來患者が大抵毎日百人内外有ります、其中に初生兒膿漏眼で、治療を受けて居る人が——多いときと少ないときと有りますが——大抵五人か三人とのゝした事は滅多に有りません。是れを以て見れば、初生兒膿漏眼を患へて居る人の數は、非常に多いもので有と考へます。歐羅巴に於ての統計は多くあり升けれど、數を澤山讀み立てると、御退屈を招く基ですから一ッ二ッ申して置きます。

伯林の第一產科院で調べました表は、百人に付一人乃至八人、第二の產科院では百人に付七人乃至二十一人、ライプチッヒでは百人の中に七人乃至十八人、最も多い處になりますると、百人に就て二十五人も有ります、此比較で參りましたならば、余程多數の人が此病ひに罹ると云ふ事を豫想して間違ひなからうと思ひます。然らば一旦此病ひに罹りた人の中で、治療期の遲れて失明した者は何程と云ふ事を調べまするど、少くとも此の病ひに罹った以上は、百人に就て十八人乃至四十五人は失明致します。日本では東京盲啞學校で一昨年調べて見ましたが、先づ盲人の大多數は、皆此初生兒膿漏眼に依て、失明したので御座います、各國の表に依て見ましても、歐羅巴の或盲人計り居る處の調べに依れば百人の盲人の中四十八人乃至六十人は、初生兒膿漏眼に依て失明した人で有ります。實に此病ひに罹る數と云ふものは、大變多く御座います。此れに依て初生兒膿漏眼と云ふ病ひが、非常に危險で有ると云ふ事は確かに御分りになりましたらうと考へます。ソレ程危險な病氣であるなれば、此病ひを未發に防ぐ事は出來やう乎、一度起りたる病ひを治療する事は出來やう乎、此問題が今日の御話しの大眼目で有ります。此豫防法は唯次に陳ぶる三ヶ條を實行すれば容易で御座

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

います。

第一ヶ條は、産道を清潔にする事。子供の生れ出て來りまする道路を潔くするので、——若し姙娠の御方で白帶下が有りましたらば、速かに專門の醫師に就て、其白帶下を癒して貰はなければなりません。第二ヶ條は、故あつて懷姙中に、白帶下の治療を施す事が出來なかつたならば、分娩の際に臨んで有力なる消毒藥を以て。産道を充分清潔にしなければならん。此第一ヶ條と二ヶ條は、婦人科專門の醫師が擔當する處で有りませうから、其道の人に就て御相談に及りましたなら、尙は好い趣向が澤山に在らうと思ひます。

第三ヶ條は、赤兒の眼の取扱ひ方、殊に眼を大切にしなければなりません。眼はドウ云ふ方法に依て洗ふのが宜からふか、何を以て洗ふたら宜からうか、先づ試みに産婆の致す處を見て居りまするを、大抵は海綿で洗ひます。其海綿はドウ云ふもので有るかと云ふに、曾て外の子供のからだを洗ふたものを以て初湯を使ふたる後、同一の湯にて洗ひます。實に是れ程危險なる事は有りません。眼を洗ふ材料には、極く清潔なる新らしい晒布を能く洗ひ出し糊氣を落して使うが宜しい。又是れに用ゐます洗液はドウ云ふものが宜いかと云ふに、今までは石炭酸昇汞水とか、サルチル酸とか格魯兒水、などで洗ひ來りましたが、何れも充分の働きを持つて居りません。何よりも一番確かに目的を達するのは「クレデー」氏の法で御座います、「クレデー」氏は獨逸のライプチッヒ府の醫科大學の教授として居る人で御座いまして、此人が數年間經驗を積んで發明したので御座います。而して此法は極く簡單で、子供が生れまするを、前に御話し仕た樣に。清潔の晒布で初湯とする前に眼を洗ひ其後に五十倍の硝酸銀液を一滴落す丈けの事

で、此法が有力であるか否かと云ふ証據は其結果を見れば一番よく分る、以前此法の發明されざるときに於ては、獨逸、佛蘭西等の產科院に於て、生れた子供が百人に就き、十八位ゐは此病ひに罹つたものが、此法を輸入して以來、千人に就て一人くらゐしか同患者がなくなつた。是れに因て考へて見れば、此法は、非常に有力なるものと云はなければならん。硼酸水で眼を洗ひ、硝酸銀液を一滴點眼するのみで、實に簡單なる法で御座います。然して是れは誰れに任せても宜しいで御座いませうか、念の上に念をおしてやるには、眼科専門の人に委ねるが確かですが、併し此事は上流社會には行はれるが、下等社會には到底實行しがたい事である、ソレのみならず山間の僻陬杯では、子供が生れたと云ては、一々醫師を頼むと云ふ樣では、到底醫師が足りません。普通の開業醫に依賴しても宜しいが、招く事が出來ない事情も有つて、招かれんともありませんから、不充分では有りますけれども、此豫防法を產婆に托するか今日の處では宜しからうと思ふ。若しも私の希望を云ふて見よと云ふ人がありましたならば、私の望む所と云ふは產婆學を教授する人々が他の要用なる事柄を教授すると同時に、初生膿漏眼の危險なものである、單に當人のみならず、若しも眼を手拭で拭たものを、他の人が遣ふと直ちに傳染して非常なる害となる程の、傳染力を持つて居る、危險なるものであると云ふ事を、產婆に教授して、產婆は、皆機械を入れる箱の中には、必ず五十倍の硝酸銀液を備へて置かなければならん。而して子供が生れたならば病氣の有無に拘はらず、「クレデー」氏の法を行ふて貰ひたい。第一の希望は、區役所又は他の官廳等で一つの法令を布て總て產婆たるものが、初生兒の膿漏眼と思ふて居る者を見たる時には、直ちに所管の

郡縣區醫に此事を屆け出で、若しも屆出を怠つた時は、若干の罰金に處せると云ふ事を、日本に實行せられん事を希望せる、是れは私の希望斗りでなく歐羅巴各國では一般にとは申されんが、多くの國に於て既に實行されて居るので、斯くの如き有益の事は、日本政府に於ても、一日も早く實行せられん事を希望して已みません。

ソレから、次に必要と考へますのは、唯此事を產婆に一任する斗りでなく、世の人の父たり母たるべき者が危險と云ふ事を知らなければならぬ。ヲ官廳よりも時々成る丈け解り易く書たものを、一枚摺りの何のにして、危險なる事を世の中の人に成るべく多く知らしむるが必要と考へます、若しも當婦人衛生會に於ても、此思召が有り、筆を執つて呉れと云ふ御依賴がありますれば、簡單にして解り易く書く事を私は好んで應ずる積りで御座います、假令ソレ丈けの事を特別に御企てになる事は出來ませんまでも、ドウか婦人衛生會の雜誌に折々危險なる事をば御記載ありて、一般公衆の注意を喚起したいと思ひます。

然して此事が日本に實行されました曉には四萬人の失明者が一人も地を拂ふて無くなるかと云ふにサウは參りません、初生兒膿漏眼の外に、まだ〱失明の原因は種々有ります。併しながら眞に實行さるれば、四萬人の失明者をば、二萬人にせる事は誠に容易い。ソレから勘定とすると、先きの三百萬圓余の金額が年々生して往くので有ります、而して之と同時に世の中の光明を見ないで居るものが、二萬人助るので御座います。

本會錄事

○三月總會　四月五日第一土曜日午後一時より京橋

區宗十郎町七番地大日本私立衛生會集會室に於て本會の總會を開く當日雨天なりしを以て出席會員三拾餘名に過ぎす最初本會半年度會計及事務の報告あり次に古川榮君人孔に就き齒圖分析表等を示し演說せられ次に濱田玄達君產後の養生法に就きての講演あり終りて震災地より寄附の慘狀寫眞及謝狀等を各自の縱覽に供し茶菓の饗應あり四時散會せり

本會半年度會計報告（自明治廿四年九月 至明治廿五年二月）

收入之部

	圓	錢	厘
一前年度繰越高	一六	五三	二
一會費集金額	一七九	九五	〇
一寄附金	一	〇〇	〇
合計	一九七	四八	二

支出之部

	圓	錢	厘
一會場費	一一	九七	〇
一速記料	三	〇〇	〇
一雜誌印刷料	四一	九三	八
一郵券并端書	一	八八	〇
一諸印刷料	二八	四二	〇
一筆墨紙	五	〇八	五
一三井銀行預金	一〇	〇〇	〇
一器具運搬費		三〇	〇
一饗應費	二	六五	〇
一會費戻		三〇	〇
一事務員給料	三〇	〇〇	〇
一雜費	一六	四五	四
一臨時費	四	五〇	〇
合計	一五六	四九	七

收支差引

	圓	錢	厘
一殘金	四〇	九八	五

三井銀行預金

	圓	錢	厘
一總高	八一	九三	二
一預金	一〇	〇〇	〇
一利子	二	二一	二
合計	九四	一四	四

附屬保育園會計報告（自明治二十四年九月 至明治二十五年二月）

收入之部

	圓	錢	厘
一前年度繰越高	二〇四	二一	二
一寄附金	一	〇〇	〇
一保育料	八五	〇〇	〇
合計	二九〇	二一	二

支出之部

	圓	錢	厘
一借家料	一〇九	六〇	〇
一保姆手當	二〇	〇〇	〇
一器具料	五	四三	五
一雜費	七	一八	六

一牛乳	五六九五
一食費	八三七九五
一廣告料	五二九八
合計	一三六〇〇九
一殘額　收支差引	一五四二〇三

明治二十五年二月二十九日現在會員數調

一總會員四百五拾人

內譯

一修身會員	拾參人
一特別會員	拾參人
一男子贊成員	五拾貳人
一府內通常會員	貳百五拾八人
一地方會員	八拾六人
一千葉支會々員	三拾九人

自明治二十四年九月至仝廿五年二月入退會數

一入會者數	參拾五人
一退會者數	貳拾三人
一死亡	參人

◎明治二十四年九月以降仝二十五年二月に至ル寄送雜誌左の如し

一愛媛衛生會雜誌三冊　大日本私立衛生會愛媛支會
一三重衛生會雜誌　六冊　三重私立衛生會
一產科婦人科研究會月報壹冊　產科婦人科研究會
一埼玉衛生雜誌　六冊　大日本私立衛生會埼玉支會
一婦人教育會雜誌　四冊　婦人教育會
一護國の楯　四冊　北海禁酒會
一衛生實論　壹冊　聖會本場

◎三月中入會者左の如し（御姓名御申順）

保育園委員榊幸子の照介により
一田口つる子　本鄉區駒込西片町十番地
一鬼頭なと子　本鄉區駒込西片町十番地
會長加藤すゞ子の照介により
一
一
一
副會長濱尾さく子の照介により
一嶋田志げ子　小石川區小日向臺町一丁目
會員塙とせ子の照介により
一增田はな子　本鄉第一醫院
一河野きく子　仝　所
幹事西まき子の照介により
一伊地知ひろ子　麻布區田島町五十九番地
贊成員齋藤澤君の照介により
一島野友八君　淺艸區瓦町十番地

◎寄附　幹事馬渡たま子より保育園へ金壹圓せられたり

保育園設立趣意及規則摘要

夫れ母の赤子を乳養するは天性に出るが故に實母の乳汁を以て實子を保育する時は母兒共に大益ある事ながら其体質に由りては親ら乳養して却て母兒共に害を蒙ることあり其他不幸にして生母の早く世を去り或は湧乳乏しく又種々の已むなき事情ありて親ら乳養することの叶はぬ等の場合ありて生兒を他人に托し保育せしむる者あり是世に謂ふ里兒にして間々嬰孩育養の法に疎く夫か爲其兒の健康を害ひ遂に不治の病を釀すに至り始めて之を生家に告げ父母をして無念の感を起さしむる者少しとせず本會の深く杞憂する所なり玆に諸大家諸士の賛成を以て育兒の一法を設け食物衣服居間より嬉戯玩弄の品に至る迄悉く衛生の原則に據り專ら慈愛の心もて委托を受し兒子を保育し若し疾に罹りしことあらんには小兒科專門の本園主任醫に診察を乞ふは申す迄もなく平素無病の時とても時々之に健体診察を受けしめ病を未萌に防ぎ健全に成長せしめんとを而して入園兒は生後三十日以上とし哺乳兒は乳母若くは精撰の牛乳を以て養育するを常則とす但し特別の他は望に依り相互協議の上乳母を選傭する事を得入園料は特等一ヶ月七圓並等五圓とす目下欠員あり詳細の規則御熟覽の上速に御申込ありたし

麹町區一番町十二番地
大日本婦人衛生會附屬

保育園

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎廣告

拓地殖民 **北海時論** 第八號 目次

毎月二回發兌一部七錢(全國無遞送料)
十二部(半ヶ年分) 前金八拾錢
廿四部(一ヶ年分) 仝 壹圓五拾錢
但郵劵代用(五厘切手に限る)は一割增

●經綸○北海道地方議會其三○札幌農學校(完)
●淨鏡○北海道の郡區長
●拓殖○北海道拓地殖民論○コークノ製造
●飛丸○時事短評數十件
●珠明○森山氏の牧豚談○小樽枝幸間航海補助○外數件
●新燕○樺太島通信
●新潮新聞紙の未た報せさる事項數十件
●嗚呼我皇土千島○千島に對する三大事業○外千島事項數十件

北海道札幌區北一條西七丁目三番地
北海時論社

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候
會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員 太田いく子
鈴木まさ子

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人 東京麹町區三番町六十七番地
巖本善治

印刷人 東京麹町區上二番町十八番地
八木吉六